

# ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.36 Winter 2017

オツネントンボは、  
名前の通り成虫の姿で  
越冬（冬越し）します。



オツネントンボ

撮影者：山本 征弘 氏

## トピックス

### ・海上の森はいま

「森女養成講座」が開催されました！

第10回 人と自然の共生国際フォーラムが開催されました！

### ・この人 ～海上の森の木を利用して木工芸教室を開く～

「木のもつ“力”に魅せられ“美”の追求と仲間との“交流”を楽しむ」

NPO 法人 海上の森の会会員 森づくりグループ所属 布目 勝氏

## サトイモの収穫が行われました

平成28年11月13日（日）に体験学習プログラムの「里と森の教室」（第9回）が開催されました。

当日は里芋の収穫を中心に、玉ねぎの植付・えんどうの種蒔等を行いました。

里芋の収穫では、初めにスタッフから芋掘りの仕方や親芋の説明を行ってから作業に取り掛かりました。今年は成育が非常によく立派な里芋が収穫できました。収穫した里芋は、参加者へ配付するとともに、来年の植付用の親芋として一部保存しました。



# 海上の森で山歩き ～シデコブシを見ながらのコース

このコースは、シデコブシの花がある3月の末から4月初め頃がお勧めだ。リニモ又は愛知環状鉄道の八草駅を下車。愛知工業大学（愛工大）方向へ進む。八草来姓の交差点を左折。愛工大の北門へ向かう。愛工大の北門のわきにシデコブシが見える。北門の横に、あいち海上の森センター（センター）の南門があり、10時前には開門されている。南門を入ると繭玉広場、これを左に進み、沢みちを通ると、右側奥にシデコブシが見える。歩道を登ると窯の歴史館だ。前の歩道を下るとセンターに出る。ここまで約30分。センターの中庭にもシデコブシが見える。センターで海上の森の地図を入手。地図には道標の位置と番号が入っている。センターの正門を出て、広久手第1池に向かう。池を過ぎると道標36。地図で確認し道標37へ向かう。尾根を越え、歩道を下るとお目当てのシデコブシの沢湿地に至る。ここまで約20分。屋戸の湿地まで所々でシデコブシが見える。屋戸の湿地では、ハルリンドウ等を観察。満足したところで道標30へ向かう。道標30から31を経て34は尾根道だ。途中、北東側が望めるポイントがある。運が良ければオオタカ等が観察できる。道標34から35、36を経てセンターへ戻る沢沿いの道と34から37、38を経て戻る尾根道がある。

SKI 65



## センター職員随想リレー かたりべのひと言

### 海上の森は『千客万来』です！

海上の森には毎日多くの方が訪れます。散策や植物や昆虫の観察、各種イベントへの参加、卒論や総合学習などの勉強、癒し、体力向上など多岐にわたる目的を持って来られます。しかし、まだ海上の森をご存じない方も多く、「こんなに良いところがあったとは知らなかった！」と言われることもあります。私たちあいち海上の森センター職員は、そんな皆さんのお力に少しでもなるようご案内・お手伝いしております。これから海上の森に行ってみようかなと思われる方に私がおすすめしたいのは、標高327mの物見山からの里山サテライトの風景です。木々に覆われた古民家を見ると、歩いてきた疲れも吹き飛びます。その前にはぜひ、あいち海上の森センターにある「今の時期に見られる生き物たち」をチェックしてくださいね。(C.S)

## 海上の森はいま

### 「森女養成講座」が開催されました！

本年度の「あいち海上の森大学」第2弾、森林再生コース「森女養成講座」が平成28年9月から1月にかけて実施され、やる気に溢れる10人の受講生が、人工林の保全や整備について学びました。

山仕事は男性のイメージが強い世界。森林ボランティアに関心のある方のための講座は数多くありますが、参加を思いとどまったり、最初から無理だと思い込んだりする女性も多いと考えられます。そこで、「私にも森づくりができる！」という自信を持ってもらうため、今回の講座は女性のみを対象としました。定員10名に対し35名の方からご応募があり、レポートも心がこもったものばかり。女性の森づくりへの関心の高さが実感されました。



森の科学的な評価から始まり、森づくりの目標の立て方、計画の立案や選木方法、立木を狙った方向へ安全に倒すための伐倒技術、造材・搬出から製材への流れ、山の資産価値の計算など、充実した内容を一連の流れの中で学んでいただきました。実習中は、体勢変更の際のチェーンソーのブレーキかけが徹底され、普段から安全管理の意識を強く持つことの大切さが伝えられたほか、いかに安定した姿勢でチェーンソーの重さを分散するかなど、体力的に不利な女性を意識した視点からの指導もありました。

明るく楽しい雰囲気でありながら、知識、技術を身に付けようとする受講生の様子には驚くほどの真剣さを感じられました。海上の森で森林整備を続けようという動きも生まれており、今後の活躍が期待されます。

### 人と自然の共生国際フォーラムが開催されました！

このフォーラムは、2007年に「自然の叡智を再考する」をテーマに開催されてから、10回目の最終回にあたり、今回は10月29日（土）、30日（日）の2日にわたり開催致しました。

29日はウィルあいちにおいて、東洋文化研究家 アレックス・カー氏をお迎えし、「美しき日本を求めて」をテーマに特別講演を開催しました。つづくパネルディスカッションでは、コーディネーターに京都大学大学院総合生存学館長 川井秀一氏、パネリストに東北大学大学院教授 香坂玲氏、岐阜県立森林文化アカデミー副学長 川尻秀樹氏、NPO法人森のなりわい研究所代表理事 伊藤栄一氏を迎え、これまでのフォーラムの成果と未来へ向けた取組について、考えを深めることができました。

続く30日は、当センター内において、森林整備の他、アート、食、セラピーなど海上の森でのユニークな取組をした市民団体や企業による活動発表と意見交換会を開催しました。

また、屋外ではNPO法人海上の森の会による「里のふるまい」や名古屋わかもの会議の「森の探検」の他、木や竹の工作やアートワークショップ等多くのブースが出展し、子供から大人までが楽しむ姿を見ることができました。



来年度からは新たなフォーラムの後継組織が動き出しますが、今後とも人と自然が共生する持続可能な社会の実現に向け、引き続きご参加いただければ幸いです。

今回の内容は近く、ホームページや展示に掲載して参りますので、是非ご覧ください。 <http://www.mu-academy.jp/forum/>



## この人 ～海上の森の木を利用して木工芸教室を開く～

布目 勝氏

## 「木のもつ“力”に魅せられ“美”の追求と仲間との“交流”を楽しむ」

2003年4月より海上の森センターの支援を得て、木工芸教室をスタート。当初はわずか4名と心細い船出でしたが、作品を1Fに展示してから状況は一変。現在では登録メンバーが24名（内女性11名）と活況が続いています。

作品のジャンルは自由ですが、中心はプレート、鉢、盛器で間伐したヒノキや台風・大雨で倒木したヤマザクラ・ホオノキ・リュウブを利用しています。作風は実にマチマチで各人の個性の表現の場となっており、マイルド、シャープ、シビア、ユーモア、ヘビー、シック・・・と多彩。共通点は木の持つ質感を活かし、使える機能を有すること。“用の美”の追求です。開校してまだ2年半ですが、生徒の腕は着実に進歩しており、これからが楽しみです。

こうした作品造りを通してお互いの意見交換を行い、また森をテーマとした談話を交えて実に楽しい時間を共有しています。特に2Fのテラスで緑の大パノラマを眺めての昼食はとてもリッチな時間となります。

こうした場所・設備の提供に特段の配慮を頂いた海上の森センターに心より感謝しています。そのお返しの一つとして、センター正面玄関に掲げる看板“人と自然の共生”を贈ることとしました。メンバーの中には多彩な特技を持つ人材が豊富で、間伐ヒノキを母材に総力を結集して完成させました。

来館される方々には是非ご覧になり、また森の恵みが人に渡った生徒作品展示にも足を運んで頂ければと願っています。尚、入会は随時可能です。

## ＜プロフィール＞ 布目 勝

2003年～ 任意団体「茨城森林クラブ」で森林整備活動・運営委員

この間、工芸作家深澤慎太郎氏に師事し木工芸を学ぶ

2012年～ NPO法人「海上の森の会」森づくりグループで活動

森の教室（人工林の手入れ）担当

木工芸教室を指導 3回／毎月（第2・第4日曜、第3水曜）開講



## センター10周年を迎えて

あいち海上の森センターは、愛知万博閉幕10周年記念の日である、平成18年9月25日にオープンし、昨年の9月25日で10周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに、海上の森を愛する多くの皆様の力添えの賜物であります。誠にありがとうございました。

今後は、愛知万博の理念を継承するため、昨年3月に策定しました「海上の森保全活用計画

2025」に位置付けた各種取組を着実に進め、さらにステップアップしていくことを約束いたします。

新計画のコンセプトは「つづける・つなげる・ひろげる」です。

これからも、このコンセプトを大切にし、より魅力あるセンターにしていく所存でございますので、今まで以上のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

凜と澄んだ冬の空気に包まれながら、海上の森は麗らかな初春の光を受けて春の準備をしていることでしょう。ウグイスの初声が聞かれるのが待ち遠しいです。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 平成29年1月12日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード